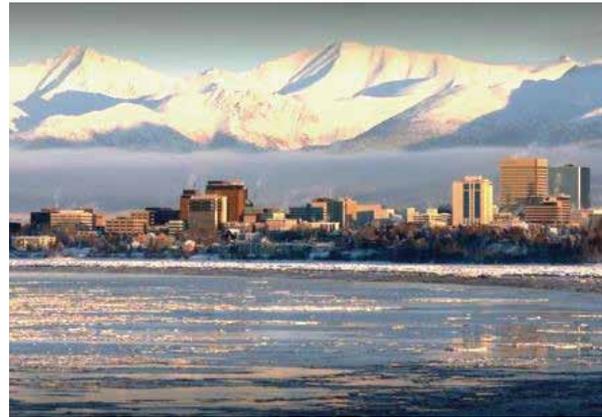


# アンカレジ市の紹介

## 地 理

アラスカ最大の都市アンカレジは、アラスカ州南部のクック湾の湾奥に位置し、北緯61度とかなり高緯度であるため、夏は冷涼、冬は非常に寒い地帯です。北方には北アメリカ大陸の最高峰、デナリ山、東部にはロッキー山脈の高峰がそびえ立ち、西部は原野が多く広がっています。



## 気 候

アンカレジ市を中心とする中南アラスカは、太平洋の黒潮が南を流れ、アラスカ山脈が北部にそびえて北風を防いでいるため気候が比較的温暖で、平均気温は、夏は10度～21度、冬はマイナス14度～マイナス6度です。

市の位置が北緯61度（千歳市は北緯43度）と高緯度地域にあるため、日照時間は、夏は19時間、冬は5時間程度で、夏には白夜が続き、冬にはオーロラが夜空にゆらめいて幻想的な世界を生み出します。

## 自 然

アンカレジは、6つの山脈に取り囲まれ、都会の快適さと自然の魅力を兼ね備えた街です。

居住地域は、アンカレジ市の約1割程度と言われており、市街地、芸術・スキーリゾート、先住民の村や軍事基地などです。

残りは、美しい自然が残っている荒野であり、チュガッチ州立公園、チュガッチ国有林、その他多くの湖や小川からなります。市民は、白夜のもと野球などのスポーツを楽しんだりすることもできます。

また、1年を通じてハイキング、サイクリング、スキー、スケートなどの野外活動で自然と一体になれます。野生動物のムースなどは、大自然を自由に駆け回り、道路沿いで、しばしば見かけることができます。



## 交 通

アンカレジには、アンカレジ国際空港、軍の2基地の他、フッド湖水上飛行機基地や市営のメリルフィールド空港があります。アンカレジ国際空港は、かつて、北極圏周りのヨーロッパ便が給与のために寄港し、現在でも航空貨物のハブ空港であることから、世界的に重要な空港として、航空貨物業も発達しております。

アンカレジ港では、アラスカ鉄道で輸送される一般貨物の85%を取り扱っています。

アラスカ鉄道は、アンカレジ／フェアバンクス間、アンカレジ／スワード間ポーター／ウィットティア間で運行しています。夏季の旅行シーズンにはアラスカ鉄道は1日に一本、アンカレジから北と南にそれぞれ運行されています。北はデナリ国立公園を通り、フェアバンクスへ。南はポーターを通り、スワードまたはウィットティアまで。展望車や食堂車もあり、アラスカの大自然をゆったりと楽しむことができます。



## 生 活

アンカレジ市では企業、ボランティアそして市民は一丸になり、冬は犬ゾリ世界選手権大会や毛皮まつり、クロスカントリー・スキー選手権大会などを開きます。夏のミッドナイト・サン・マラソンには、世界各地から約4,000名のランナーが参加するなど、年間を通し様々なイベントで賑わいます。

スポーツ施設も充実しており、クロスカントリー・スキー・コース、ジョギング・コースの他に、ソリ会場やハイキング用遊歩道、自転車道などが充実しています。市内には160以上の公園があり、スキー場や夏にはサイクリング・コースとなるクロスカントリー用トレイル、アイスホッケー場、ゴルフ場、キャンプ場、そして水泳場が整備されています。



また、州内外のみならず国際的な各種催し会場として利用されている、公演芸術センター、コンベンション・センター、歴史・芸術博物館、アラスカ民族文化センター、自然史博物館、スポーツ・アリーナなどの施設も充実しております。



## 歴史

### 1 アラスカに人類が渡る

アラスカに人類が渡ったのは、旧石器時代（約12000年前）だと考えられています。

その頃、ユーラシア大陸とアラスカの間はベーリング地峡でつながっており、そこを渡って人々がユーラシア大陸からアラスカへ移住してきました。

アラスカの先は厚い氷河におおわれていましたが、氷河期の終わりと共に消え去り、人々はカナダへも行けるようになりました。そしてアラスカ先住民として、幾つかのグループに分かれて510年頃、デナイナと呼ばれる民族がアラスカ州の内陸部から、現在のアンカレジに移り住み、動物を捕まえたり、魚を取ったり、植物を集めたりして生活を始めました。

デナイナの人たちは食べ物を小屋で保存する方法を身につけ、他の国からの探検家達がやって来たときに、物々交換をするようになりました。

### 2 1741年 ロシア海軍が北アメリカの調査に

1741年、ロシアの探検隊に所属するデンマーク人航海士ヴィトゥス・ベーリングが、北アメリカの調査のために海を渡ってアラスカ南部に上陸しました。ベーリングは物々交換で食べるものを得ながら船で調査を続け、美しい毛皮の服になるラッコの大群を発見しました。

ベーリングは、アラスカの人たちにラッコを捕まえさせ、たくさんの毛皮を集めてロシアへ持ちかえろうとしました。

しかし、ロシアに帰還途中で船が壊れ、たどり着いた島でベーリングは死んでしまいますが、ベーリングの仲間の船はロシアに無事に帰還し、ロシアの人たちに、すばらしい毛皮を見せました。

これを見てロシアの人たちはアラスカに興味をもち、ロシアからアラスカにたくさんの船が渡るようになりました。

ロシアの人たちは、鉄砲でアラスカの人たちを脅してラッコを捕まえさせるようになり、こうしてアラスカはロシアの植民地となっていきました。

1741年  
ロシア海軍が北アメリカの調査に。  
ロシア人の進出・支配。



ヴィトゥス・ベーリング

ロシアからアラスカ南東の海岸まで航海した。



1778年  
キャプテン ジェームズ・クックがデナイナ人に接触。

キャプテン  
ジェームズ・クック  
イギリス人の船の船長。  
探検家。

大西洋から太平洋へ向かう、新しくそれまでより速く行くことができる航路を見つけたいと思っていました。

彼はクック入り江と呼ばれるところに船で入ってきました。



### 3 1867年 ロシアからの解放・アメリカに

1867年10月18日、長い間、アラスカを支配してきたロシアは、クリミア戦争で敗北し、財政が悪化したため、アラスカをアメリカ合衆国に売却しました。アラスカの人たちは、この記念すべき日を「アラスカデー」として、今でもお祝いをしています。

1867年 ロシアからの解放・アメリカに



### 4 1880年 アラスカで金を発見

1880年、アラスカで金が発見されてからは、世界中からたくさんの人がアラスカに集まってくるようになり、ゴールドラッシュに沸きました。



金を洗うアラスカの採鉱者 1916年

### 5 1912年 アラスカがアメリカ合衆国の準州へ

1912年に、アラスカは正式にアメリカ合衆国の準州となりました。

アメリカ合衆国政府は、アラスカでとれた金をアメリカ本土へ船で運ぶため、アラスカの内陸から沿岸まで通じるアラスカ鉄道を建設することにしました。



1912年 アラスカがアメリカ合衆国の準州へ

## 6 1915年 アンカレジが「鉄道のまち」に

1915年、アンカレジはこの鉄道建設の基地となりました。これが、アンカレジの発展の始まりです。

トンネルを掘ったり橋を作る仕事を求めて、アメリカ中からアンカレジに人が集まり、その人たちはテントで生活していたため、アンカレジはテント村と呼ばれました。

やがて、アンカレジに小さな家が建ち、店や郵便局、レストランや映画館もできて、アンカレジは「鉄道のまち」としてどんどん大きくなっていきました。

1915年 アンカレジが「鉄道のまち」に



## 7 1930年 アンカレジが「空港のまち」に

さらに、第一次世界大戦が終わったころ、アンカレジは、アジアやヨーロッパをむすぶ航空輸送の中心としての重要性が高まり、国際空港が建設されました。

1930年 アンカレジの最初の空港 メリルフィールドが完成



## 8 1940年 アンカレジが「基地のまち」に

1940年、アメリカ合衆国政府は、第二次世界大戦に備えるため、アンカレジに2つの軍事基地を建設しました。

基地建設の仕事を求めて、アンカレジにはさらに多くの人が集まり、また、兵隊が何千人も住むようになり、アンカレジは「基地のまち」としても発展していきました。

この頃、兵隊たちに必要なものを運ぶため、アメリカ本土からカナダを通してアラスカにわたる高速道路が建設されました。この道路によって、とうとうアラスカは、アメリカ合衆国と陸路でつながりました。

1940年代 アンカレジが「基地のまち」に



## 9 1959年 アラスカがアメリカ合衆国の州に

1959年1月3日、アラスカは正式にアメリカ合衆国の49番目の州として認められ、アラスカの人たちは盛大にお祝いをしました。

1959年 アラスカがアメリカ合衆国の州に





## 10 1968年 アラスカで大油田を発見、アラスカの住民に富を配分

1968年、北アメリカで一番大きな油田が、アラスカ州で発見されました。石油を海岸まで運ぶパイプラインを建設するため、また多く人がアラスカに集まってきました。

アラスカ州は、この石油を世界中に輸出してたくさんのお金を得ることができるようになりました。

そして、アラスカ州に住んでいる人たちは、毎年10月に、石油を売って得られたお金の一部を永久基金配給金として受け取ることができるようになりました。

このようにして、1500年ぐらい前に、デナイナの人たちが狩りをして生活していたアンカレジは、アメリカ合衆国でも有数の豊かな地域に発展していきました。



1968年 アラスカで大油田を発見

パーマネント・ファンド・ディビデンド＝永久基金。これは、アラスカに住む人々が、毎年10月に受け取るお金です。



## 日本語イマージョンプログラム

日本語イマージョンプログラムは、保護者や教職員等による設置運動の結果、教育委員会の認可を得、1989年にスタートしました。このプログラムは、1970年代より米国内で始まった、初等外国語教育プログラムの流れに沿うものでもあり、日本語イマージョンプログラムでは、「日本語を学ぶ」のではなく、「日本語で他教科や文化」を勉強しながら言葉を学んでいきます。

アンカレジ学校区には、小学校に併設された幼稚園から高校までの13年間一貫の日本語イマージョンプログラムがあります。サンドレイク小学校（幼稚園併設）・ミアーズ中学校・ダイヤモンド高校において、およそ約650名の生徒が日本語を学んでいます。

また、“友の会”という保護者団体は、校内での勉強・行事のほか、千歳市との交流事業や校外での活動において様々な支援をしております。

## サンドレイク小学校（幼稚園～6年生）

サンドレイク小学校は、1989年から日本語イマージョンプログラムを開始しました。学校全体の児童数の約半数（340名程度）が日本語イマージョンプログラムで学んでおり、幼稚園の年長から小学6年生まで、1日の半分を英語の教室、もう半分を日本語の教室で過ごし、日本語教室では英語は使わず社会や理科などを日本語で学びます。

幼児期から日本の言葉と文化に触れて育った児童達にとって、5・6年生で千歳市との交流事業に参加することは「大きな夢」となっています。卒業後も日本語学習を続け、両国の架け橋として活躍している卒業生が数多くいます。



## ミアーズ中学校 (7~8年生)

受験制度のないアラスカでは、生徒は個性を生かし、のびのびと学習しています。主要4教科以外は美術、コンピューター、技術、家庭、第二外国語が選択科目となっています。日本語は人気科目の一つです。

日本語イメージプログラムは小学校より少なく1日2時間。社会科を日本語で学ぶほか、語彙、文型などを日本語クラスで学びます。千歳市との交流事業は、生きた日本語、文化を学ぶ上で欠かせないものとなっています。



## ダイヤモンド高校 (9~12年生)

ダイヤモンド高校は、州唯一の日本語イメージプログラムを設けており、スタッフ数は約140名、学生数は約1,700名と大きな高校です。

アンカレジは多民族の都市なので、多言語・多文化の環境に順応できるように、ダイヤモンド高校では、日本語、スペイン語、ドイツ語、フランス語の中から学生が選択して外国語を学んでいます。日本語クラスには、イメージプログラムの学生と選択授業として日本語クラスを取る学生がおり、学生は自分の目的やレベルに合わせて授業を選べるようになっています。

ダイヤモンド高校とは、姉妹都市提携50周年記念として実施した英語スピーチコンテストの上位者3名が2020年1月にダイヤモンド高校を訪問し、交流を深めました。



## アラスカ大学アンカレジ校

アラスカ大学アンカレジ校 (UAA) は、6つの学部(カレッジ)と41の大学院専攻などがあり、学生数約18,000名のアラスカ州で最大の州立大学です。教養学部に加え、航空技術に関する米国最先端の研究施設を有し、環境学、天然資源学、極域健康科学、地域医療、生物医学、社会学、経済学、流通・物流など地域学 (Community Engagement) に関する特色ある教育研究プログラムを有しています。UAAは周辺の6つの地点にキャンパスを有し、メインキャンパスはアラスカで一番大きな都市であるアンカレジに位置しています。



アンカレジは、海や山など大自然に囲まれた人口30万の中都市で、散歩が楽しめるトレイルが街中を縦横に走っています。230キロ北方にそびえる北アメリカ最高峰のデナリ山が一望できます。アラスカ原住民を始め、様々な文化的背景をもつ民族が共存しており、全米で最も多様な都市であると言われています。空軍基地が隣接しており、ダウン・タウンから車で20分程の所には、テッド・スティーブンス・アンカレジ国際空港が、海岸線を40分ほど南に下った所にはスキーリゾートがあります。

UAAに留学する場合の授業料は、通常アラスカ州外や海外からの学生の授業料は非居住者授業料となり、居住者授業料の3倍となりますが、千歳市がアンカレジ市の姉妹都市である関係上、千歳市のみならず、北海道全域からの留学生には、居住者授業料で講義を受けることができます。

